

9月15日から、2016年度Ⅱ期がはじまりました。現ビズ1年生には、初めての大学での夏休みを終えたところですが、学生の皆さんからは、ボランティア活動、インターンシップ、海外研修と、日ごろの授業ではできない貴重な体験についての話をうかがいました。

今回は、現ビズ学生の夏休み体験談をお伝えします。

ひょうご・東日本大震災被災地「絆」ボランティア活動

2016年8月4日(木)～8月6日(土)にかけて、ひょうごボランタリープラザ主催の「ひょうご・東日本大震災被災地『絆』ボランティア活動」に兵庫大学からは学生12名、職員1名とNPO法人「シミンシーズ」職員1名が参加しました。そのうち、現ビズからは学生6名が参加し、被災地視察ののち、仙台七夕花火大会で座席案内や後片付けなどのボランティア活動に従事しました。名取市閑上地区では、被災された方から直接当時の様子を伺いました。学生たちは被災された皆様に元気を届けたいと思っていたようですが、被災地の方々は、学生たちに優しく明るく接してくださり、大きな勇気を与えるとともに、「東日本大震災のことを後世にしっかりと伝える」というバトンを託されました。学生たちはしっかりと受け止めたようです。また、仙台七夕花火大会は、30度を超す猛暑の中、それぞれの役割を懸命にこなし、充実したボランティア活動を行うことができました。未来に向けて、社会の一員として、自分たちにできること、これからの自分たちの役割について考え、体験する貴重な機会となりました。

バスで出発！



▲沿岸部の様子



▲花火大会でのボランティア活動



熊本地震被災地支援・復興支援事業

兵庫大学では、ヒューマンサービスの専門職を養成する大学の使命に基づき、熊本地震被災地支援活動を行うこととし、2016年8月23日(火)から9月1日(木)の間、熊本県阿蘇郡西原村で学生28人が支援活動を行いました。現Bizからは、学生2名が参加し、8月28日(日)～9月1日(土)に仮設住宅への訪問、支援物資の配達、福祉施設での昼食会の運営などに従事しました。現Bizの学生は、社会福祉学科や看護学科の学生のように医療・福祉の専門教育を受けていませんが、ボランティア活動を通して、それぞれができる形で協力することで明らかに「変わる」こと、そして、人と寄り添うことの大切さを学びました。東北でのボランティア活動と同様に、現地でお会いした方々から多くの元気をもらったようで、これからの学生生活を支える貴重な体験となりました。



支援活動の詳細については、兵庫大学ボランティアセンターホームページをご覧ください。

アメリカ短期留学

兵庫大学では、4年前より国際交流事業を進めています。今年度の海外派遣プログラムの1つとして、2016年8月17日(水)～8月27日(土)に、アメリカ カリフォルニア州立ベーカーズフィールド校、福祉施設 (Kimochi, Kokoro)、サンホアキン病院などで、海外研修を行いました。現Bizからも学生1名が参加しました。福祉施設ではうちわ制作を一緒に行ったり、またベーカーズフィールド校では先生方と日本とアメリカの福祉制度について話し合いました。言葉の壁も感じたようですが、辞書を使って会話するなど、語学の勉強はもちろんのこと、海外に目を向けることの面白さと重要性を学ぶ研修となりました。

加古川観光協会でのインターンシップ

2016年8月23日(火)～8月27日(土)の5日間、現Biz1年生1名が初めてのインターンシップを体験しました。通常は3年生でインターンシップに参加することが多いのですが、観光人材を育成するには1年次からの現場体験が効果的であるという考えから、現Biz独自のプログラムとして地元観光協会が受け入れてくださいました。参加した学生からは「観光実務の習得はもちろん、今まで知らなかった地元加古川の観光名所や特産物、文化などを知ることができ、大変有意義だった」との感想が寄せられました。今後も学生にさまざまな学びの機会を提供していきたいと考えています。



Facebook ページ「兵庫大学現代ビジネス学部」にて、現Biz最新情報を随時発信しています。是非ご覧ください。